



AIG 高校生外交官渡米・日本プログラムの紹介（現高1・高2限定）

保険会社 AIG とフリーマン財団が協賛し、AIG 高校生外交官プログラム実行委員会が主催する渡米型と日本国内型の2種類のプログラムをご紹介します。両プログラムとも個人的費用を除いては移動・宿泊に伴う費用負担はありません。以下プログラム別に概要をお知らせします。

【渡米プログラム】

派遣人数：合計20名（男女各10名）

派遣先：ワシントン DC・バージニア大学 など

期間：2024年7月14日（日）～7月30日（火）予定

7月14日にオリエンテーション会場集合、16日渡米、29日帰国、30日昼に解散

訪問先：ツアーパート

ワシントン DC 国務省、議会議事堂、IMF/世界銀行、議会図書館 など

アーリントン国立墓地、トーマスジェファーソンメモリアル 等

エクスチェンジパート（24年度は感染防止の観点からホームステイは中止）

米国高校生とルームメイトとなり、バージニア大学の寮で共同生活をしながら、様々なアクティビティを体験する。午前は語学と文化を学ぶクラス、午後はディスカッションを含むアクティビティや自国を紹介し合うプレゼンテーション、アメリカ文化体験（ハロウィン、プロム等）、スポーツ など

費用：集合・解散会場までの往復飛行機代、新幹線代、米国渡航費、国内交通費、滞在費、食費、教材費、プログラム参加に関する費用は主催者側の負担

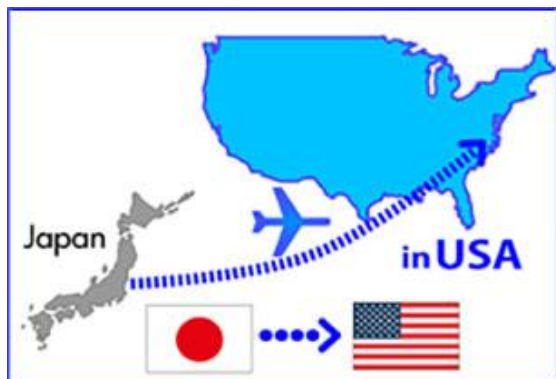
但し、プログラム参加時の在来線・バスなどの交通費、パスポート・ESTAの申請費用、検査・検査キット購入、予防接種、買い物、小遣い、電話代等は参加者負担

応募資格（一部省略して列挙します）：

- ① 1校からの応募は日本プログラムと合わせ4名まで（共学校の場合は男女各2名まで）
- ② 高等学校在学中で、所属学校長の推薦を受けた者
- ③ 2024年7月現在で高等学校2学年又は3学年に在学している者
- ④ 保護者の承諾を受けた者
- ⑥ 合格後の準備期間からプログラム終了後の解散まで全てのプログラムに他の参加者と一緒に参加できる者（合格後オンラインでの準備に参加できない方は参加を取り消す場合もあります）
- ⑦ 抗原検査の実施、ワクチン接種状況の情報提供に協力できる者
（状況によっては追加のPCR検査の実施のお願いをする場合も有り。今後の政府の判断により変更が生じる可能性も有り。）
- ⑩ 中学入学以降合計365日以上海外滞在経験を持たない者（留学・旅行も含む）

選考方法

- ①一次選考 書類選考 3月初旬までに学校・応募者宛にメールで通知
- ②二次選考 面接（日本語・英語）・グループ実習
3月16日（土）・17日（日）・20日（水・祝）のいずれか指定された1日
（生徒側では選択不可）に Web 会議ツールを使用しオンラインで実施予定
結果は4月初旬に学校・応募者にメールで通知
（以下の画像は公式 HP より転載）



【日本プログラム】

人数：合計16名（男女各8名）

会場：関西地区宿泊研修施設

期間：2024年7月18日（木）～7月29日（月）予定

7月18日（木）昼頃関西地区宿泊研修施設に集合、29日（月）午前以最寄り新幹線駅もしくは伊丹空港にて解散

内容：米国より選抜された高校生と日本国内での共同生活を通し、「高校生外交官」として国際交流を体験

クラブ活動：日米参加者が日本文化のクラブに所属。日本側参加者がリードし米国側参加者が日本文化を習得する。（例：茶道、書道、舞踊、剣道、柔道、空手、百人一首など）

ディスカッション：日米参加者が様々な議題について議論する（例：教育、政治、社会問題、戦争と平和、アイデンティティと価値観、キャリアプラン など）

プレゼンテーション：日米参加者がテーマ別のグループに分かれ、自国を英語で紹介し合う（例：教育、政治、地域性、社会問題 など）

語学・文化クラス：米国の教師による、語学と文化を学ぶクラス

その他(過去の例)：京都史跡巡り、アメリカ文化体験、ダンスパーティー、スポーツ大会など

費用：プログラム参加時の往復飛行機代、新幹線代、滞在費、食費、教材費、プログラム参加に関する費用は主催者側の負担

但し、プログラム参加時の在来線・バスなどの交通費、検査・検査キット購入費用、予防接種、買い物、小遣い、電話代等は参加者負担

応募資格：渡米プログラムと基本的には共通ですが、日本プログラムについては「海外渡航経験は問わない」という記述があります。

選考方法：渡米プログラムと日程・内容共に共通

(以下の画像は公式 HP より転載)



【校内募集スケジュール】

渡米プログラムと日本プログラムはどちらか一方を選択するだけでなく、併願することも可能です。1校から上限4名までという制限があるために応募状況によっては校内選考が必要になります。その後生徒によるエッセイの執筆・保護者同意書・学校長推薦書の作成・送信という手続きを踏む必要があるために、本校では以下のスケジュールで準備を進めます。期限を1日/1分でも守れない場合は校内選考のチャンスを失うものをご理解下さい。

校内エントリー：1月11日（木）午前8時（時間厳守）までにグローバル教育部（2号館2階）に下記の書面を提出して下さい。金曜日は担当者が不在です。

提出物：A4サイズ用の紙に以下の要件を全て満たして提出して下さい。PC・手書きいずれでも結構です。

①クラス・番号・氏名②メールアドレス③渡米・日本プログラムどちらを選択するか又は併願を希望するか意思表示④保護者の承諾は得られているかの確認（確認が取れているなら「確認済み」と記入）⑤プログラム参加への動機・意欲（字数は問わない）

選考：応募人数に応じて選考を実施します。

プログラムの詳細は以下の公式 HP からご確認下さい。プログラムの内容・形態については新型コロナウイルスの感染状況及び国際情勢によって変更・中止の場合もあるとのことです。

[AIG 高校生外交官プログラム | AIG High School Diplomats](#)

フリー・ザ・チルドレン創立25周年特別対談視聴の紹介（どなたでも参加可能）

皆さんは「フリー・ザ・チルドレン」という団体の名前を聞いたことがあるでしょうか。英語の教科書にもその活動内容が掲載されたりしているのご存じの方も多いと思います。日本でも今年「こども家庭庁」という新しい役所ができて「こどもまんなか社会」という言葉を耳にすることが増えました。海外では当時12歳だったクレイグ・キールバーガーさんが1995年にフリー・ザ・チルドレンをカナダで立ち上げて子供の差別や貧困の解消に取り組み出しました。その理念に共感した人々が各国でも団体を設立しています。2024年は創立25周年に当たるといことで創設者のクレイグさんとフリー・ザ・チルドレン日本代表理事の中島早苗さんが対談することになりました。社会科のレポートで子供の貧困や児童労働のテーマに取り組んでいる生徒諸君などは何か参考になる話が聞けるかもしれません。視聴は無料ですが、事前申し込みが必要です。申し込みは各自でお願いします。尚、対象学年や年齢は特に設定されていませんのでどなたでも申し込みます。

日時：2024年1月6日（土）10:00～12:00

形式：オンライン(ZOOM)

定員：300名（先着順）

参加費：無料

言語：英語（日本語同時通訳あり）

内容：1) フリー・ザ・チルドレンの設立からの歩み

2) 質疑応答

3) 子どもの権利が大切にされる社会を作るためにこれから求められること。

詳細及び申し込みはこちらの URL からご覧下さい。

<https://ftcj.org/archives/36214>

カナダ 生配信!

子どもが活躍するNPO

フリー・ザ・チルドレンを立ち上げた2人が語る

25年の歩み

子どもの権利が大切にされる社会を目指して



中島早苗

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表理事

創設者 対談

2024. **1.6** 土
SHIBUYA & ONLINE

参加無料

英語・日本語同時通訳



クレイグ・キールバーガー

フリー・ザ・チルドレン（カナダ）創設者

（公式 HP より転載）